

平成21年2月10日

## 平成21年石油化学製品需要見通しについて

このたび、「石油化学製品の今後の需要動向に関する研究会（事務局：製造産業局化学課）」において、石油化学製品（エチレン系・プロピレン系誘導品及び芳香族製品）の平成21年需要見通しがとりまとめられましたので公表いたします。

1. 我が国の石油化学産業をとりまく情勢が変化する中、国内石油化学製品の需要動向に関する情報を共有し、企業経営や政策等の検討につなげていくことが重要との観点から、「石油化学製品の今後の需要動向に関する研究会（事務局：製造産業局化学課，委員は石油化学産業、ユーザー産業、金融関係者等から構成）」を平成9年に設置。
2. 同研究会では、今般、平成21年の石油化学製品の需要見通しについて、政府経済見通し及び市場における個別誘導品毎の実勢を踏まえつつ検討を行い、その結果を取りまとめました。
3. 平成21年の需要見通し及び平成20年の実績見込みにかかる公表内容は、別紙のとおりです。

（本発表資料のお問い合わせ先）

製造産業局化学課長 高田 修三

担当者：小田、多田

電話：03-3501-1511（内線 3731～3740）

03-3501-1737（直通）

# 平成 21 年石油化学製品需要見通しについて

平成 21 年 2 月 10 日  
石油化学製品の今後の  
需要動向に関する研究会

石油化学製品の今後の需要動向に関する研究会（事務局：製造産業局化学課、委員名簿は別添）は、平成 21 年度の経済見通し及び市場における個別誘導品毎の実勢を踏まえつつ、21 年石油化学製品の需要見通しについて検討を行い、その結果を取りまとめた（資料 1～3）。ポイントは、以下のとおり。

## 1. 石油化学製品（エチレン及びその誘導品）

（1）平成 20 年のエチレン及びその誘導品については、

- ・世界の金融資本市場の危機の影響や原油価格の乱高下など、世界の経済・金融情勢が過去に類をみない混乱に見舞われ、景気の下降局面にあった。
- ・こうした状況の中、内需は停滞し、輸出については、中国を中心とするアジア地域の需要減退や市況軟化の影響から、大幅に減少する見込み。一方で、輸入については、前半は一昨年エチレンプラントトラブル等の影響による増加、後半は内外価格差や為替等の影響により、増加する見込み。
- ・国産品に対する需要は、エチレン換算で前年比 - 13.4% と大幅に減少する見込み。

（2）平成 21 年のエチレン及びその誘導品については、

- ・世界的な景気後退が続く中で、全般的に、内需、輸出ともに厳しい状況が続く見通し。
- ・国産品に対する需要については、後半にかけて徐々に回復していくことが期待されるが、全体として低調に推移することが予想される。特に、ポリエチレン、エチレンオキサイド、スチレンモノマーの需要が伸び悩み、エチレン換算で前年比 - 3.6% の減少となる見通し。

## 2. 芳香族製品

（1）平成 20 年の芳香族製品については、

- ・ベンゼンは、構成比率の高いスチレンモノマー、フェノール、シクロヘキサンについて、前半はプラントトラブル等の影響、後半は景気悪化による伸び悩みにより、国産品に対する需要は、前年比 - 12.2% の減少。
- ・トルエンは、ポリエステル繊維の原料となるパラキシレンの需要減退により、国産品に対する需要は、前年比 - 12.5% の減少。
- ・キシレンは、全体の 93% を占めるパラキシレンの輸出減が影響し、国産品に対する需要は、前年比 - 5.3% の減少。

( 2 ) 平成 2 1 年の芳香族製品については、

- ・ベンゼンは、2 1 年前半での需要回復は困難と予測され、国産品に対する需要は、前年比 - 7 . 0 % の減少となる見通し。
- ・トルエンは、パラキシレン需要の伸び悩みにより、国産品に対する需要は、前年比 - 7 . 3 % の減少となる見通し。
- ・キシレンは、パラキシレン及びテレフタル酸の新設装置の稼働計画等もあり、国産品に対する需要は、前年比 + 0 . 3 % 程度となる見通し。

## 平成21年1～12月期需要見通し

単位:万トン

( )内は前年同期比%

品 目	内 需			輸 出 (C)	国産品需要計 (A)+(C)	
	国産品 出荷量(A)	輸入 (B) ※レジンベース	(A)+(B)			エチレン換算
低密度ポリエチレン (EVAを含む)	154 (▲4.8%)	31.0 (+17.5%)	185 (▲1.6%)	21.5 (▲19.5%)	175 (▲6.9%)	168 (▲6.9%)
高密度ポリエチレン	83 (▲1.7%)	3.2 (+59.9%)	86 (▲0.3%)	8.4 (▲38.6%)	91 (▲6.9%)	95 (▲6.9%)
エチレンオキサイド	77 (▲4.9%)	1.5 (▲39.8%)	78 (▲6.0%)	3.2 (▲17.1%)	80 (▲5.5%)	72 (▲5.5%)
スチレンモノマー	142 (▲10.0%)	6.8 (+44.7%)	149 (▲8.5%)	111.0 (▲12.8%)	253 (▲11.3%)	73 (▲11.3%)
アセトアルデヒド	22 (▲20.6%)	0.0 (-)	22 (▲20.6%)	0.0 (-)	22 (▲20.6%)	15 (▲20.6%)
塩化ビニル	57 (▲3.0%)	1.9 (+0.0%)	59 (▲2.9%)	78.6 (+10.7%)	136 (+4.5%)	136 (+4.5%)
そ の 他	54 (+4.7%)	8.1 (▲64.2%)	63 (▲16.3%)	29.0 (+18.3%)	83 (+9.0%)	83 (+9.0%)
合計(エチレン換算)	471 (▲4.1%)	44.6 (▲17.5%)	516 (▲5.4%)	171.5 (▲2.1%)		643 (▲3.6%)

[備考] 製品輸入ベースの輸入数量	
低密度ポリエチレン (EVAを含む)	63.5 (+8.6%)
高密度ポリエチレン	36.6 (+3.5%)

品 目	内 需			輸 出 (C)	国産品需要計 (A)+(C)	
	国産品 出荷量(A)	輸入 (B) ※レジンベース	(A)+(B)			プロピレン換算
ポリプロピレン	232 (▲2.6%)	19.8 (+0.0%)	252 (▲2.4%)	38.7 (▲2.8%)	271 (▲2.7%)	279 (▲2.7%)
アクリロニトリル	51 (+5.1%)	3.0 (▲25.0%)	54 (+2.8%)	13.0 (+11.1%)	64 (+6.3%)	70 (+6.3%)
そ の 他	115 (▲9.8%)	17.8 (▲0.0%)	133 (▲8.6%)	78.8 (+1.8%)	194 (▲5.4%)	194 (▲5.4%)
合計(プロピレン換算)	410 (▲3.8%)	41.4 (▲2.6%)	451 (▲3.7%)	132.9 (+1.3%)		543 (▲2.6%)

[備考] 製品輸入ベースの輸入数量	
ポリプロピレン	42.3 (+5.0%)

- (注) 1.「エチレンオキサイド」は、EO及びEGのEO換算値。  
2.「スチレンモノマー」は、輸出入欄にPS及びABSの輸出入量(SM換算値)を加算したものの。  
3.「塩化ビニル」はエチレン換算、「その他」及び「合計」はエチレン、プロピレン換算。  
4.PPIはフィラー(添加剤)等を含む。  
5.輸出入については通関統計の実績を基に経済産業省で推計。

## 平成20年1～12月期実績見込み

単位：万トン  
 ( )内は前年同期比%

品 目	内 需			輸 出 (C)	国産品需要計 (A)+(C)		[参考]国産品需要計 + 在庫増減等 (エチレン換算)
	国産品 出荷量(A)	輸入 (B) ※レジンベース	(A)+(B)		エチレン換算		
低密度ポリエチレン (EVAを含む)	162 (▲7.3%)	26.3 (+32.9%)	188 (▲3.2%)	26.8 (▲13.4%)	188 (▲8.2%)	181 (▲8.2%)	192 (▲3.2%)
高密度ポリエチレン	84 (▲7.4%)	2.0 (+83.7%)	86 (▲6.4%)	13.7 (▲23.1%)	98 (▲10.0%)	102 (▲10.0%)	108 (▲7.8%)
エチレンオキサイド	81 (▲6.6%)	2.4 (+34.0%)	83 (▲5.8%)	3.8 (▲69.0%)	85 (▲14.4%)	76 (▲14.4%)	78 (▲11.1%)
スチレンモノマー	158 (▲10.2%)	4.7 (+15.5%)	163 (▲9.7%)	127.3 (▲28.5%)	285 (▲19.4%)	83 (▲19.4%)	83 (▲19.3%)
アセトアルデヒド	28 (▲23.6%)	0.0 (-)	28 (▲23.6%)	0.0 (-)	28 (▲23.6%)	19 (▲23.6%)	19 (▲23.3%)
塩化ビニル	59 (▲1.3%)	1.9 (▲72.0%)	61 (▲8.5%)	71.0 (▲24.7%)	130 (▲15.6%)	130 (▲15.6%)	131 (▲15.3%)
そ の 他	52 (+0.4%)	22.7 (+145.2%)	75 (+22.4%)	24.5 (▲35.7%)	77 (▲14.9%)	77 (▲14.9%)	78 (▲12.8%)
合計(エチレン換算)	491 (▲6.8%)	54.1 (+42.5%)	546 (▲3.5%)	175.3 (▲27.8%)		667 (▲13.4%)	688 (▲11.1%)

[備 考]	
製品輸入ベースの輸入数量	
低密度ポリエチレン (EVAを含む)	58.5 (+14.6%)
高密度ポリエチレン	35.4 (+4.4%)

品 目	内 需			輸 出 (C)	国産品需要計 (A)+(C)		[参考]国産品需要計 + 在庫増減等 (プロピレン換算)
	国産品 出荷量(A)	輸入 (B) ※レジンベース	(A)+(B)		プロピレン換算		
ポリプロピレン	238 (▲10.9%)	19.8 (+79.5%)	258 (▲7.4%)	39.8 (▲22.9%)	278 (▲12.9%)	287 (▲12.9%)	297 (▲6.5%)
アクリロニトリル	49 (▲13.8%)	4.0 (+11.1%)	53 (▲12.3%)	11.7 (▲31.2%)	61 (▲17.8%)	66 (▲17.8%)	66 (▲19.0%)
そ の 他	127 (▲14.2%)	17.8 (+72.2%)	145 (▲8.6%)	77.4 (▲5.8%)	205 (▲11.2%)	205 (▲11.2%)	205 (▲10.8%)
合計(プロピレン換算)	426 (▲12.3%)	42.5 (+66.1%)	469 (▲8.4%)	131.1 (▲14.8%)		557 (▲12.9%)	568 (▲9.7%)

[備 考]	
製品輸入ベースの輸入数量	
ポリプロピレン	40.3 (+36.5%)

- (注) 1.「エチレンオキサイド」は、EO及びEGのEO換算値。  
 2.「スチレンモノマー」は、輸出入欄にPS及びABSの輸出入量(SM換算値)を加算したもの。  
 3.「塩化ビニル」はエチレン換算、「その他」及び「合計」はエチレン、プロピレン換算。  
 4.PPはフィラー(添加剤)等を含む。  
 5.輸出入については通関統計の実績を基に経済産業省で推計。

## 芳香族製品需要見通し

平成20年実績

(単位:万トン、%)  
( )内は前年同期比%

品 目	内 需			輸出(C)	国産品需要計 (A)+(C)	国産品需要計 + 在庫増減等
	国産品 出荷量(A)	輸 入(B)	(A)+(B)			
ベ ン ゼ ン	419 (-16.6%)	7.1 (-36.0%)	426 (-17.0%)	40.9 (+87.6%)	460 (-12.2%)	459 (-12.0%)
ト ル エ ン	120 (-12.0%)	1.5 (-25.0%)	122 (-12.1%)	23.3 (-15.3%)	143 (-12.5%)	144 (-13.0%)
キ シ レ ン	469 (-6.2%)	0.0 (+0.0%)	469 (-6.4%)	99.5 (-0.9%)	569 (-5.3%)	567 (-6.3%)

平成21年見通し

(単位:万トン、%)  
( )内は前年同期比%

品 目	内 需			輸出(C)	国産品需要計 (A)+(C)	国産品需要計 + 在庫増減等
	国産品 出荷量(A)	輸 入(B)	(A)+(B)			
ベ ン ゼ ン	400 (-4.6%)	4.0 (-43.7%)	404 (-5.2%)	28.0 (-31.5%)	428 (-7.0%)	
ト ル エ ン	117 (-2.6%)	1.0 (-33.3%)	118 (-3.0%)	16.0 (-31.3%)	133 (-7.3%)	
キ シ レ ン	471 (+0.2%)	0.0 (+0.0%)	471 (+0.2%)	100.0 (+0.5%)	571 (+0.3%)	

(注1)輸出入については通関統計の実績を基に経済産業省で推計。

## 国内の石油化学製品需要見通しの算出について

### 1. 対象品目

#### (1) エチレン系、プロピレン系石油化学製品の国内の需要見通し

エチレン系石油化学製品:

エチレン、低密度ポリエチレン(LDPE)、直鎖状低密度ポリエチレン(L-LDPE)、高密度ポリエチレン(HDPE)、エチレン酢ビコポリマー(EVA)、スチレンモノマー(SM)、ポリスチレン(PS)、塩化ビニルモノマー(VCM)、塩化ビニル樹脂(PVC)、アセトアルデヒド(ALD)、エチレングリコール(EG)、エチレンオキサイド(EO)、その他誘導品

\*その他には、酢酸ビニルモノマーなどエチレン系誘導品が含まれる。

プロピレン系石油化学製品:

プロピレン、ポリプロピレン(PP)、アクリルニトリル(AN)、その他誘導品

\*その他には、プロピレンオキサイド(PO)、プロピレングリコール(PG)などプロピレン系誘導品が含まれる。

#### (2) 芳香族製品の国内の需要見通し:ベンゼン、トルエン、キシレン

### 2. 算定方法

#### (1) 平成20年実績(見込み)

製品毎に以下を算定

生産量:実績値

輸出入量:実績値(12月分は過去トレンドから推計)

国産品出荷量:生産量 - 在庫増減等 - 輸出力

内需:国産品出荷量 + 輸入量

国産品需要計:国産品出荷量 + 輸出力

#### (2) 平成21年需要見通し

製品毎に以下を算定

輸出入量:過去トレンド、需要動向を予測して推計

国産品出荷量:過去トレンド、需要動向を予測して推計

内需:国産品出荷量 + 輸入量

国産品需要計:国産品出荷量 + 輸出力

1.(1)、(2)ともに4.原単位を用いて換算値を算出。

2.算定に当たっては、「政府経済見通し」等を参照。

### 3. エチレン換算式・プロピレン換算式

エチレン:(LDPE L-LDPE含む) + (HDPE) + (EVA) + (SM PS等を含む) + (VCM) + (PVC) + (ALD) + (EO EGを含む) + (その他)

プロピレン:(PP) + (AN) + (その他)

### 4. 原単位

各誘導品のエチレン換算及びプロピレン換算原単位については、以下の数値を用いた。

HPLDPE:1.03、L-LDPE:0.90、EVA:0.93、HDPE:1.04、EO:0.90、SM:0.29、ALD:0.66、PP:1.03、AN:1.09

(別添)

石油化学製品の今後の需要動向に関する研究会委員名簿

調査機関

古田 克哉 みずほコーポレート銀行産業調査部長

メーカー

坂本 修一 石油化学工業協会製品委員会(スチレン担当)  
(旭化成ケミカルズ(株)モノマー第二事業部長)

中村 敏雄 塩ビ工業・環境協会総務委員会(業務部会委員)  
(株カネカ執行役員 化成事業部長)

宮崎 孝 石油化学工業協会製品委員会(エレン、アセアルヒド担当)  
(昭和電工(株)常務取締役)

権田 昌二 石油化学工業協会製品委員会(芳香族担当)  
(新日本石油(株)化学品本部アロマ部長)

近藤 富士夫 石油化学工業協会製品委員会(エレンサイド・ゲリコール担当)  
(株日本触媒常務取締役)

本堂 明 石油化学工業協会製品委員会(ポリエチレン担当)  
(日本ポリエチレン(株)取締役企画管理部長)

岩淵 滋 石油化学工業協会製品委員会(ポリプロピレン担当)  
(株プライムポリマー取締役社長)

ユーザー

榊 康裕 (社)日本化学工業協会酢酸連絡会委員  
(ダイセル化学工業(株)有機合成品カンパニーマーケティング1部部長)

小林 友二 日本アクリロニトリル工業会会長  
(旭化成ケミカルズ(株)取締役兼 常務執行役員)

息 誠一 日本化学繊維協会専務理事

久米 政文 (社)日本塗料工業会専務理事

勝浦 嗣夫 日本プラスチック工業連盟専務理事

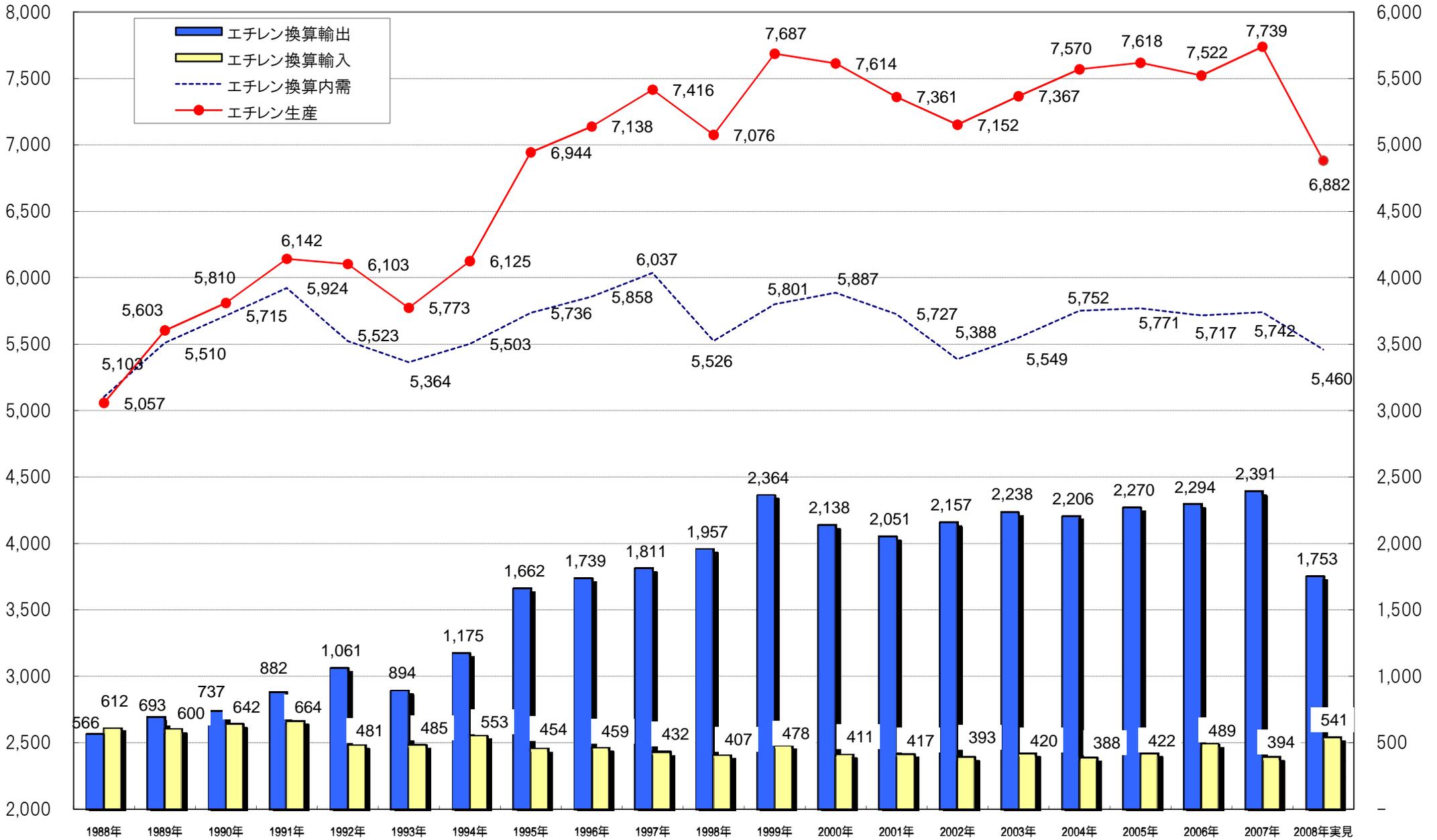
事務局

経済産業省 製造産業局 化学課

(敬称略、種別内で会社名・団体名で五十音順)

### エチレン換算需給バランス

(単位:千トン)



### エチレン換算需給推移及び在庫率

